

廣川 治さんの生涯と業績

山田 直利¹⁾

廣川 治さんは1917年（大正6年）6月9日、新潟県中蒲原郡大江山村大字直り山（現新潟市江南区亀田）にお生まれになりました。旧制新潟県立新潟中学校（現新潟県立新潟高等学校）卒業後、旧制新潟高等学校（現在の新潟大学）理科乙類に進学されました。1939年4月に東京帝国大学理学部地質学科に入学され、地質学の研鑽を積まれました。同期生には、一緒に地質調査所に入られた東郷文雄氏、鹿児島大学教授の有田忠雄氏、岡山大学教授の逸見吉之助氏（いずれも故人）などがおられます。

廣川さんが東大生になられた頃は、日中戦争が始まり、第二次世界大戦が勃発したばかりの、まさに戦争の時代でした。太平洋戦争の開始によって大学生生活は3ヶ月短縮されて1941年12月に卒業、翌年1月には商工省地質調査所に入所されました。しかし、同年2月には現役兵として招集され、野砲連隊、高射砲連隊に勤務、1944年にシンガポールに派遣、1945年8月終戦と同時に陸軍中尉となりますが、復員されたのは翌年の5月でした。

復員後直ちに地下資源調査所に復職され、1948年には工業技術庁発足に伴う組織改編で復活した地質調査所の地

質部土木地質課主任研究員となり、その後、1956年には地質部編図課長、1957年には同図幅第一課長、1963年にはふたたび編図課長、さらに1965年からは地質第一課長を歴任されました。その間に、戦後の新規事業であった50万分の1地質図幅や20万分の1地質図幅の編纂ならびに5万分の1地質図幅事業の中心メンバーとして、大活躍をされました。

廣川さんは1950年代から1960年代にかけて5万分の1地質図幅を13枚も作成されました。なかでも、「人首」・「大迫」両図幅では南部北上山地の中央部に発達する超苦鉄質岩体を、「鋸崎」・「冠島」・「丹後由良」・「但馬竹田」・「大屋市場」・「佐用」の各図幅では近畿地方舞鶴帯の古生層に伴う変斑れい岩類を、また「肥前高島」図幅では本邦最西端に位置する結晶片岩・変斑れい岩類を、構造地質学・岩石学の観点から研究され、その後の研究に先鞭をつけられました。

1967年から3年間、サウジアラビア王国で鉱物資源開発に関する調査に従事されました。帰国後は地質部主任研究官として、アジア極東地質構造図の編集などに活躍され



写真1 つくばね会（1992年3月28日つくば市一ノ矢）にて。後方に当時出版されたばかりの100万分の1地質図（第3版）が掲げられている。前列左から2番目が廣川さん。

1) 元地質調査所地質標本館長

キーワード：廣川 治、地質調査所、地質図幅、JICA、海外技術協力、連語句

ました。

1970年から始まった100万分の1日本地質図編纂に当たっては、同地質図編纂委員会の委員長として率先して編纂作業に取り組みました。廣川さんは独力で同地質図の第一原図を作られ、それを基に各地域・分野ごとに作業が進められました。1975年に定年を待たずして退職され、JICA特別顧問としてモロッコ、アルゼンチン、ポツアナ、マダガスカルの鉱物資源探査に関わりました。100万分の1日本地質図（第2版）は1978年12月に出版され、内外から高く評価されましたが、同図の完成は廣川さんなくしてはありえなかったため、同図には廣川 治ほか編（1978）としてその名が刻まれています。廣川さんはまた、日本地質学界にとって長年議論的であった「長崎三角地帯」の研究史をあまねく紹介し、新たな視点を提出されました（廣川、1976）。

廣川さんは1978年から2年半、インドネシア鉱物資源技術開発センターに派遣されました。同センターでは顕微鏡観察法の指導や火山学の教科書執筆などのご活動をされました。このような活動に対して同センター長から感謝の楯と記念品が贈られています。帰国後、1981年から5年間は日本科学技術情報センターの嘱託として、外国文献の翻訳・紹介に努めました。1990年には長年の地質学研究および海外での技術協力・指導の功績により、勲四等瑞宝章を叙勲されています（写真1）。

廣川さんは若い頃から連句に興味をお持ちでしたが、公務員を退いてからは内外の連句に関する書を渉猟し、1996年、それらの知識を単行本「連語句を楽しむ」（近

代文芸社）として上梓されました。「連語句」とは廣川さんの造語で、従来の連句を言葉のモンタージュとして広くとらえたものです。同書の出版をお祝いする会には奥様と子どももお元氣な姿を見せていただきました（写真2）。

「連語句を楽しむ」を出版された少し後から病に襲われ、それからは長い療養の日々を送られました。2008年には最愛の奥様に先立たれました。2011年1月5日、廣川さんは長女はるみ様にみとられつつ93年の生涯を終えられました。廣川さんは温厚・篤実にして、深い学識と広い視野を持って研究を遂行し、途上国の技術援助・指導にも努められました。ここに、長年のご業績を紹介させていただくとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

廣川 治さんの生い立ちについては、廣川はるみ様より御教示いただきました。厚くお礼申し上げます。

主な研究業績（年代順）

- 廣川 治・吉田 尚（1954）5万分の1地質図幅「人首」および同説明書。地質調査所。
- 廣川 治・東郷文雄・神戸信和（1954）5万分の1地質図幅「但馬竹田」および同説明書。地質調査所。
- 廣川 治・東郷文雄・神戸信和（1954）5万分の1地質図幅「大屋市場」および同説明書。地質調査所。
- 廣川 治・村山正郎（1955）5万分の1地質図幅「岩内」および同説明書。地質調査所。
- 廣川 治・吉田 尚（1956）5万分の1地質図幅「大迫」および同説明書。地質調査所。
- 廣川 治・黒田和男（1957）5万分の1地質図幅「冠島」



写真2 「連語句を楽しむ」出版祝賀会での廣川さんご夫妻（1996年8月10日、自由が丘）。

- および同説明書. 地質調査所.
- 広川 治・黒田和男 (1957) 5万分の1地質図幅「鋸崎」
および同説明書. 地質調査所.
- 広川 治 (1958) 5万分の1地質図幅「丹後由良」および
同説明書. 地質調査所.
- 広川 治・黒田和男 (1960) 5万分の1地質図幅「宮津」
および同説明書. 地質調査所.
- 広川 治ほか11名編 (1960) 50万分の1地質図幅「青
森」. 地質調査所.
- 広川 治・水野篤行 (1962) 5万分の1地質図幅「肥前高
島 付野母崎」および同説明書. 地質調査所.
- 広川 治 (1965) 5万分の1地質図幅「今治西部」および
同説明書. 地質調査所.
- 広川 治・水野篤行 (1965) 5万分の1地質図幅「串本」
および同説明書. 地質調査所.
- 広川 治ほか11名編 (1969) 50万分の1地質図幅「東
京」, 第2版. 地質調査所.
- 広川 治 (1972) アジア極東地質構造図について (そ
の1) - アジア極東地質構造図編集会議 -. 地質
ニュース, no.219, 30-37.
- 広川 治ほか8名編 (1973) 50万分の1地質図幅「岡
山」. 地質調査所.
- 広川 治 (1974a) アジア極東地質構造図について (そ
の2) - プレートテクトニクスとインドネシア付近の
地質構造 -. 地質ニュース, no.236, 14-34.
- 広川 治 (1974b) アジア極東地質構造図について (そ
の3) - 第2回アジア極東地質構造図編集会議と地質
構造図編集要領 -. 地質ニュース, no.244, 1-9.
- Hirokawa, O. (1975) : Ultramafic and mafic intrusive
rocks. *An Outline of the Geology of Japan, 3rd edi-
tion*, Geological Survey of Japan, 42-46.
- 広川 治・今井 功・坂本 亨・奥村公男・須田芳朗
(1976) 20万分の1地質図幅「静岡・御前崎」. 地
質調査所.
- 広川 治ほか5名編 (1976) 50万分の1地質図幅「福
岡」, 第3版. 地質調査所.
- 広川 治 (1976) 北部九州の地質構造 - 長崎三角地域に
まつわる問題 -. 地質調査所報告, no. 256, 71p.
- 広川 治ほか17名編 (1978) 100万分の1日本地質図,
第2版. 地質調査所.
- 廣川 治 (1996) 連語句を楽しむ (1巻・2巻). 近代文
芸社, 東京, 338p., 358p.

YAMADA Naotoshi (2012): A life and bibliography of
Mr. Osamu Hirokawa.

(受付: 2011年12月2日)